

(財) 日立市体育協会 20周年に

日立市サッカー協会

(財) 体育協会10周年で 「日立市サッカー協会設立、Jリーグ発足・(財) 日立市体育協会設立、サッカー環境の変革(グラウンド整備、スポーツの振興)」について当協会10年の歩みを綴りました。

その後の10年を振り返って！平成14年から平成24年(2002～2012)

1) 日本(アジア)で初めてのワールドカップ開催(平成14年 2002年)

Jリーグ発足から10年、日本のサッカーが真に幕開けした年であります。

日立出身の「鈴木隆行」君の日本代表チームで活躍した姿は当時の日立のサッカー関係者のみならず、多くの子供たちに感動を与えてくれたこと、日本の隅々の地域までがサッカーワールドカップでスポーツに対する環境が変わっていくことを予感したのではないのでしょうか。

日立市サッカー協会としても、「地域密着、貢献、還元」を実現するため「新生日立市サッカー協会」に向けて動き始めました。

2) サッカー環境の変革

①サッカー場の建設

日立市内でもっとも遅れている所、サッカーが出来る天然芝、人工芝のグラウンドが無いこと。

未来のサッカー選手を育てる最も大事な環境が備わっていない状況でした。

その環境から脱するために、平成14～16年「天然芝サッカー場を作ろう！」を合言葉に

日立市のご協力、ご理解の下平成15年「日立市民運動公園陸上競技場」が天然芝(ティフトン)に改修され全国自治体職員サッカー大会が開催されました。

また、平成21年には天然芝「浜の宮広場」が出来上がり、市民野球場ピッチ内が「人工芝」に改修されサッカーも出来るようになりました。

これらグラウンドが“日立サッカー復活”の発信基地となるよう願っています。

②指導者の育成・2種、3種、4種、女子の育成

Jリーグ、ワールドカップ後の指導者育成、子供たちの育成(特にゴールデンエイジ)については

日本サッカー協会から常に新しいスキルを発信され取り入れることが出来るようになり、指導者の資質向上と指導マニュアルの浸透が進んでいます。

平成18年 4種(ジュニア)にはクラブ組織「FC日立」設立、平成21年には「GKクリニック＝4種(2種、3種は県指導で)」、「女子ジュニアクリニック」が設立、平成22年指導者育成「キッズ指導者講習会」が開催されそれぞれのカテゴリーでの育成指導が始まった。

③市民密着・貢献・還元

その後、市民陸上、浜の宮広場のピッチ上では 「高校日立カップ、日立Gリーグ、市内高校OB戦、日立ライオンズ杯中学校大会、市民サッカー大会、サッカーフェスティバル、日立桜カップ、4種大会、3種リーグ戦、アントラーズノルテ」等が開催されています。

平成23年には久しく開催できなかった「陸上競技場でのサッカーの観戦」を 関東大学サッカー連盟大学リーグ戦を実現し、市民の皆様に観戦していただけたことは大きな貢献と確信しています。

今後の目標としてソフト（育成）とハード（人工芝サッカー場・照明付）の充実を目指して。

年度	一 般	日立市サッカー協会	年度	一 般	日立市サッカー協会
H14	2002W杯日本 鈴木隆行君出場	・FC40 シニア 優勝 FCレディース 誕生	H20		第1回日立高校OB戦 女子クリニック開催
H15		市民陸上天然芝ピッチ 完成	H21	日立一高サッカー部 創部60周年	浜の宮広場整備完成 宮田乃武衛元会長亡
H16	日立工業高校サッカー部 創部50周年		H22	2010W杯南ア 野球場人工芝改修	会長 伊藤和彦就任 浜の宮管理委員会設置
H17		松木安太郎氏 講演	H23	2011女子W杯 なでしこJ優勝	東日本大震災 3・11 関東大学リーグ戦開催
H18	2006杯ドイツ	会長 小泉敏治就任 FC日立4種設立	H24	ロンドン5輪 日立工業高校60周年	関東大学リーグ戦開催 浜の宮・市民ピッチ改修
H19	日本協会シニアロイヤル	表彰 日立シニア 5名			

日立市民サッカー大会	72回	一般・35歳以上=20
日立市民サッカーリーグ	38回	1・2部=22
日立高校サッカーフェスティバル	32回	市内、県外=24
日立桜カップ少年サッカー大会	26回	市、県内・外=16
日立ライオンズ杯中学サッカー大会	23回	市内・外、県外=24
サッカーフェスティバル	20回	市内 小、中、一般
中学ジュニア大会（1年生）	35回	市内、外=16
日立Gリーグ大会	7回	市、県内、県外=7
日立市内高校OB戦	5回	市内=6
関東大学サッカーリーグ戦	2回	関東1部・2部=4